

里親の支援ニーズと支援機関に求める役割

○ 大阪府立大学 氏名 伊藤 嘉余子 (会員番号3930)

キーワード: 里親・里親支援・里親の支援ニーズ

1. 研究目的

2011(平成23)年に「社会的養護の課題と将来像」が発表された。その中では「里親委託率の向上(30%)」が目標として示されており、今日、その目標達成に向けて、里親制度の拡充を含めた社会的養護制度の新たな施策づくりが推進されている。

里親委託を積極的に推進しようとの機運が高まる中で、単に里親委託率を上げるだけでなく、委託後いかに安定した里親養育を継続できるよう支援できるかが非常に重要であるが、その点についての議論や検証が必ずしも十分とはいえない現状にあると考える。

そこで、本研究では、里親がどのような支援ニーズを抱えているかを明らかにするとともに、児童相談所や里親会等の里親支援を担う機関別に、里親が各機関にどのような役割を求めているかについて明らかにすることを研究目的として分析・検証を行った。

2. 研究の視点および方法

まず、調査の方法である。近畿圏内にある5自治体の協力を得て、自治体内で登録しているすべての里親を対象に、郵送法によるアンケート調査を実施した。郵送にあたっては、住所等里親の個人情報保護のため、各児童相談所に里親人数分の調査票を渡し、各児童相談所において調査票の封入・発送作業をお願いした。調査票の返送については、調査票とともに同封した返信用封筒によって、各里親から大学研究室宛の個別郵送とした。

次に、調査結果の分析の視点である。里親支援を担う機関(児童相談所・里親会・里親支援機関・子どもの出身施設)ごとに、相談経験の有無、相談しやすさとその理由、相談内容等について比較検証した。相談しやすさと相談経験については選択肢による回答を、相談内容と相談しやすさの理由については自由記述によって回答を求めた。自由記述内容についてはテキストマイニング(SPSS Text Analytics for Surveys 4)を用いて分析を行った。

3. 倫理的配慮

本研究は、大阪府立大学大学院人間社会学研究科が設置する研究倫理委員会において審査を受け、倫理的配慮がなされていると承認を受けたものである。

調査票に同封した調査依頼文書および調査票表紙に、調査の目的、調査で得たデータの活用方法、結果公表時に個人等が特定されることのないよう十分配慮すること等について誓約する内容を明記し、調査への回答・調査票の返送をもって、その内容に同意を得たこととした。

4. 研究結果

(1) 機関ごとの相談しやすさ(表1)

機関ごとの相談しやすさについては、児童相談所については「とても相談しやすい」「まあ相談しやすい」の合計が6割弱で、4つの中では最も相談しやすい機関という結果になった。

(2) なぜ相談しやすいか/しづらいかの理由(表2)

相談しやすさ/しづらさの理由について自由記述で回答を求めたところ、「相談しやすい」との回答が最も多かった児童相談所において、ネガティブな内容の記述が他の機関よりも多い結果となった。

児童相談所については「職員の異動」「多忙」が原因で相談しづらいという記述が多かった。

里親会については「相談よりも愚痴が多い」が「先輩里親の経験談が役立つ」という記述が多かった。民間里親支援機関については「親身になってくれる」「(児相と違い) 継続して支援を受けられる」というポジティブな記述が多い一方で「里親に批判的な指導が多い」との記述も目立った。

子どもの出身施設については「子どもの担当職員が退職」「乳児院出身児には必要性がない」との記述が多かった。

(3) 機関別にみる相談した内容のある内容(表3)

過去に相談した内容のある内容について回答を求めたところ、機関ごとに相談内容を使い分けている状況が示唆された。具体的には、児相には専門的助言を求めることが多いのに対して、里親会では日々の里子との関わりに関する情報共有を、民間機関では子育て一般に関する助言支援を、子どもの出身施設では里子に関する個別の情報提供を求めていることが伺えた。

紙面の都合上、研究結果の一部のみを記載した。当日配布資料によってさらなる結果を報告予定である。

(表1) 機関ごとの相談しやすさ(n=319)

	とても相談しやすい		まあ相談しやすい		やや相談しづらい		相談したくない	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
児童相談所	58	18.2	123	38.6	62	19.4	21	6.6
里親会	60	18.8	89	27.9	65	20.4	30	9.4
民間支援機関	43	13.5	66	20.7	59	18.5	30	9.4
子の出身施設	45	14.1	58	18.2	59	18.5	44	13.8

(表2) 機関別にみる頻出単語(上位3つ)

児童相談所		里親会		民間の里親支援機関		子どもの出身施設	
ポジティブ (63)	初タイプ (95)	ポジティブ (70)	初タイプ (37)	ポジティブ (36)	初タイプ (25)	ポジティブ (33)	初タイプ (55)
親身	異動	里親	相談	親身	批判	子ども	職員
専門的	答え	共感	愚痴	継続性	理解	職員	必要性
子ども	多忙	経験	養子	支援	里親	交流	乳児院

(表3) 機関別にみる相談した内容(上位3つ)

児童相談所	里親会	民間の里親支援機関	子どもの出身施設
非行、問題行動等	日々の関わり	非行・問題行動等	委託前の様子、入所理由
実親との関わり	子の年齢に応じた躰	試し行動・赤ちゃん返り	健康面の注意事項
子の発達の遅れ	実親との関わり	日々の関わり	食事に関する内容

5. 考察

調査結果から、以下の必要性が示唆された。

- 1) 児相よりも身近な相談支援機関を地域に設置する必要性
- 2) 民間の里親支援機関の発展・拡充(里親にとっての相談先の選択肢の拡大)
- 3) 施設に配置された「里親支援専門相談員」の役割の見直しと確立
- 4) 各機関間の連携・情報共有、里親支援ネットワークの構築
- 5) 相談支援以外の支援メニューの拡充

謝辞

本報告は、2013年度文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(C))「日本における里親支援体制の近未来像の構築: 里親・施設・行政の有機的連携」の一部を報告するものです。本調査にご協力下さいました皆様に深謝いたします。